

雌阿寒岳

1 概況（平成14年9月）

観測データに大きな変化はなく静穏に経過しました。長期的に見るとポンマチネシリ 96-1 火口では高温状態が継続しており、地震活動も時々活発化するなど火山活動は高いレベルを維持しています。

2 噴煙活動の状況

ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙高度は概ね火口上 50～200m程度で推移し、赤沼西方噴気孔、中マチネシリ火口についても特別な変化はありませんでした。各火口とも気象の影響で一時的に噴煙が高く見えたこともありましたが、火山活動の活発化ではありません。

3 地震活動の状況

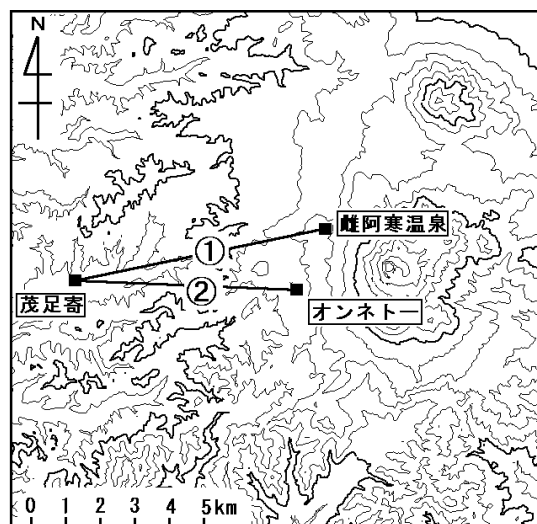
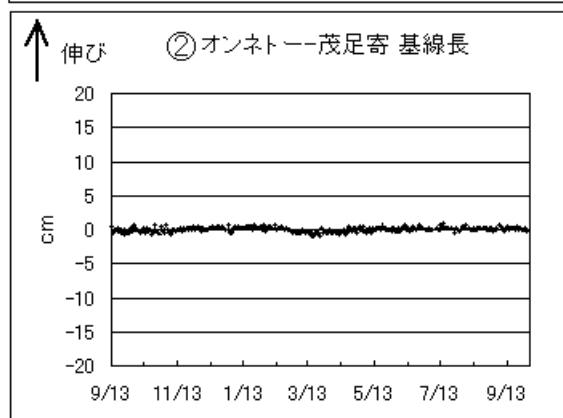
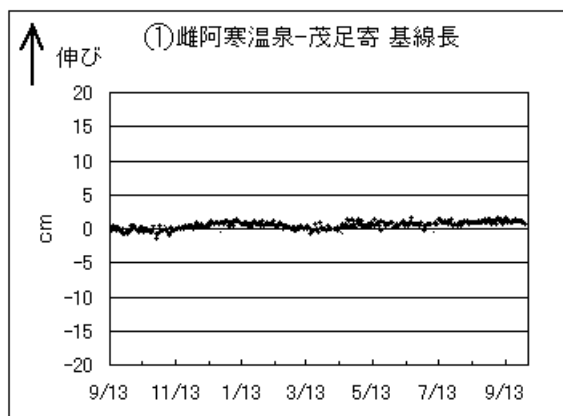
地震の増加や火山性微動の発生はありませんでした。地震回数は1日あたり0～6回と平常レベルで推移しました。

月別地震・微動回数（B点）

平成13～14年	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
地震回数	29	56	18	21	39	204	17	11	20	32	25	34
微動回数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0

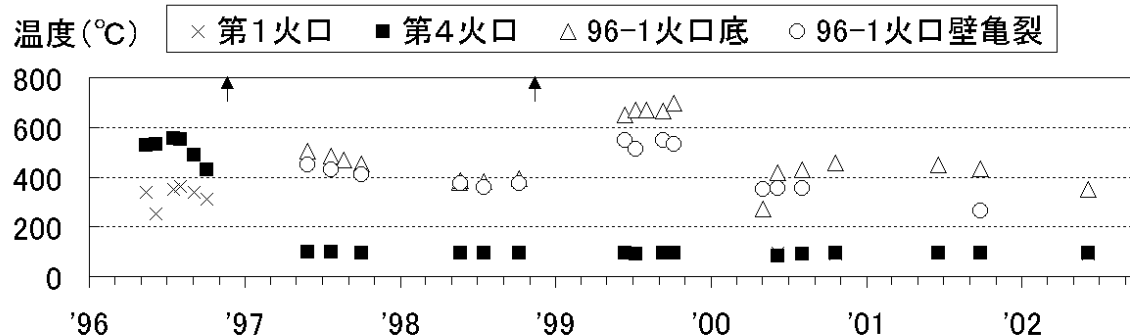
4 地殻変動の状況

G P S 観測では、火山活動に起因すると考えられる特別な変化はありませんでした。

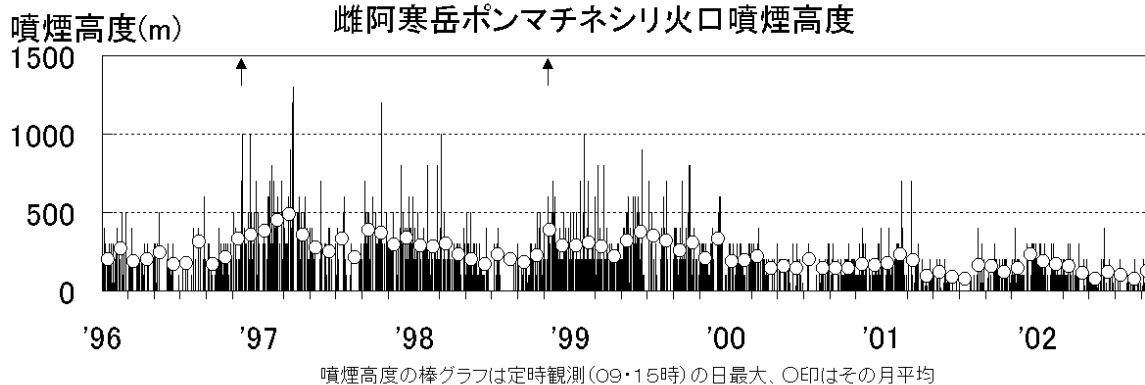


雌阿寒岳基線長グラフ（2001年9月13日～2002年9月30日）

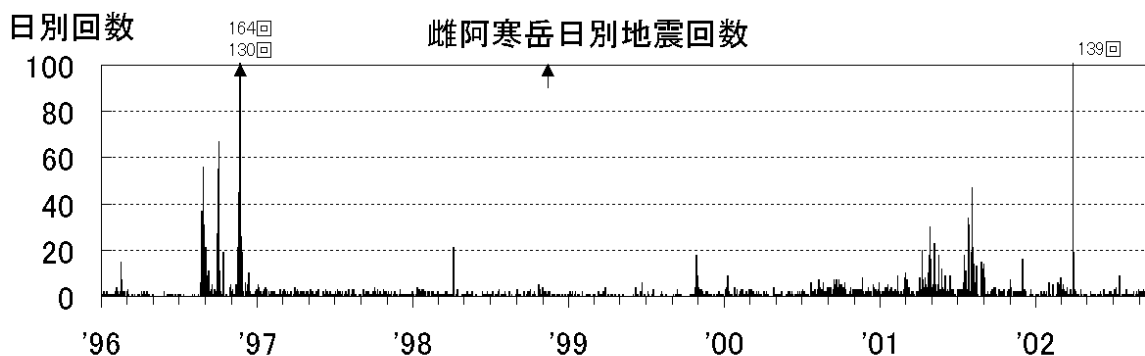
雌阿寒岳ポンマチネシリ火口温度



雌阿寒岳ポンマチネシリ火口噴煙高度



雌阿寒岳日別地震回数



雌阿寒岳火山活動経過図（1996年1月1日～2002年9月30日）↑印は噴火